

見学お役立ちシート

名称	方保田東原遺跡（かとうだひがしばるいせき）
住所	〒861-0382 熊本県山鹿市方保田110-1
電話番号	【問い合わせ・申し込みは出土文化材管理センター 0968-46-5512】9:00～16:30（土・日・祝日・年末年始は休館）
地図URL	https://goo.gl/maps/hEYScfRrZ1K8rJcD8 
営業時間 見学所要時間 （目安）	所要時間：出土文化材管理センターと方保田東原遺跡で30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	出土文化材管理センター（駐車場あり、トイレあり）大型バス不可
時代	原始（弥生時代後期から古墳時代前期）
参考URL	https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264126266698/index.html
出典	『山鹿市の指定文化財』18頁 『山鹿市のとびき』54～55頁 文化遺産オンライン（ https://bunka.nii.ac.jp/ ）山鹿市ホームページ
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡（昭和60年指定） ・方保田東原遺跡は、熊本県の北部、山鹿市中心部から東へ4kmの菊池川中流域の標高35mの台地上にあります。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡であったことがわかりました。昭和55年に起こった宅地造成計画に伴い、山鹿市教育委員会が確認調査を実施したところ、少なくとも東西330m、南北300mに及ぶ環濠集落跡であることが判明しました。 ・調査面積は遺跡全体の10%未満ですが、350軒を超える住居跡や幅9mの大溝など溝跡が約20条、その他甕棺墓や木棺墓などの墓跡も30数基見つっています。なかでも弥生時代の権力の象徴とされている青銅製品が、県内で最も多く見つっているのがこの遺跡の特徴です。青銅製品のうち巴形銅器は直径12.3mで、全国で最大級のものです。また、鏡は破片を合わせると計10点出土していて、一集落の出土としては全国屈指の量を誇っています。菊池川沿いの山鹿一帯を治めた中心勢力であったと考えられます。 ・主要な出土遺物952点が国重要文化財に指定されています。（土器、土製品429点 金属製品371点 石器、石製品54点 貝輪2点 ガラス玉96点） ・一通りの鉄器が揃っており、この集落で鉄器化がかなり進んでいることを示します。 ・石包丁型鉄器（長さ11.7cm）は現在のところこの遺跡だけで出土している希少な資料です。